

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495100206	事業の開始年月日	平成25年5月1日
		指定年月日	平成25年5月1日
法人名	社会福祉法人 伸こう福祉会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護 クロスハート幸・川崎		
所在地	(〒212-0007) 神奈川県川崎市幸区河原町1-37		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25名
		通い定員	15名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	6名
		定員計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果 市町村受理日	平成27年1月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様が住み慣れた家での生活を継続できるよう施設と訪問によるサービスを組み合わせ支援しております。特別養護老人ホームと併設しており、地域の方々にも開かれた施設を目指しています。自治会町内会との合同の行事を行ったりして、地域の中の施設として認知されてきています。
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年9月16日	評価機関 評価決定日	平成26年11月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】 この事業所は、JR川崎駅より徒歩15分位（バス利用の場合バス停から5分）の大規模な河原町団地の一角にある。徒歩数分のところに緑道があり、春には花見を楽しんでいる。事業所は鉄筋コンクリート造4階建ての1階部分で、2階～4階は同一法人の特別養護老人ホームとショートステイになっている。事業所はラウンジ風で、玄関から外履きのままで利用できる。体機能の低下を防ぐために手すりなども最小限になっている。特別養護老人ホームの厨房で調理された食事を提供したり、夏祭りや防災訓練を合同で行うなど特別養護老人ホームと連携している。 1階部分には「カフェコーナー」、「図書コーナー」などがあり、地域の方にも開放している。また保育室があり、子育て中の職員の職場環境に配慮している。
【理念について】 事業所は法人理念「たくさんのよきものを人生の先輩たち、後輩たち、そして地域に捧ぐ」を基本としている。現管理者赴任後（7月）、新たに事業所独自の運営方針として「好きな場所で好きなことを続けられるように」を作り上げた。職員は、利用者自身から望むことを発信してもらえるように、発信が困難な方には、会話を多くするなどの働きかけをしている。
【通いの利用者の日常】 利用者は塗り絵や五目並べをしたり、庭を散歩したり、看護師から体操の指導を受けたり、歌を歌うなど過ごし方を自分自身で決めている。タバコが好きな方のために、ベンチに座って庭を見ながら喫煙できるスペースがある。入浴は、リフト浴の設備があるので身体機能の低下があっても入浴ができる。買い物のサポートも受けている。

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	小規模多機能型居宅介護クロスハート幸・川崎
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「たくさんのよきものを人生の先輩たち、後輩たち、そして地域に捧ぐ」のもとサービス提供を行っている。	理念は法人と共有している。事業所独自の運営方針として「好きな場所で好きなことを続けられるように」を7月、管理者赴任後に作り上げた。入職時や全体会議などで理念の確認をしており、職員に理念が浸透している。職員は利用者が望むことを大事にしてサービスの提供をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントやお祭りに積極的に参加している。地域と交流できるようにつとめている。	自治会の夏祭りではポップコーンの販売などを行い、利用者2名が参加した。法人合同の夏祭りが開催されたが、地域の方に小規模多機能型事業所があまり理解されていなかったのもので、今後、認知してもらえるように働きかける意向である。	地域の方に小規模多機能型居宅介護事業所の情報発信をするなど、地域とのつながりをさらに深める取り組みが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に向けてまだまだ発信できていない。地域の方々にも地道ながらも認知されるようにする。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では報告や話し合いを行ない。又、各種の勉強会を行なっている。	今年度の運営推進会議は6月、8月に開催され、今後も2か月に1回開催される予定である。参加者は家族、利用者、連合自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員、職員である。事業所の活動などを報告し、参加者と意見交換をしている。参加者の意見を取り入れ、介護の勉強会も行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小規模多機能連絡会への参加をして講習や研修への職員の参加を行っている。	幸区高齢障害課担当職員と連絡を取っており、何かあれば相談できる関係を築いている。要介護認定の更新代行を行っており、その際に担当職員と話をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設では拘束を絶対にせず、自由に生活できるよう支援している。	重要事項説明書に身体拘束禁止が明記され、実践している。全体会議で身体拘束の話をしている。玄関は安全面を考慮して施錠されている。利用者が外出を希望する時は職員が対応し、一緒に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常業務の中で職員に指導している。また職員間で相互に確認し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修資料を使用し、日常の業務の中で伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書の内容説明を行ない、ご利用者・ご家族の不安のないようにつとめている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者・ご家族等から聴取を行ない随時運営に反映している。	家族の意見は送迎時に口頭で聞いたり、連絡ノートで把握したりしている。意見箱（理事長への手紙）を設置し、毎月15日に法人が回収している。エアコン使用時、利用者から寒いという意見があり、大型の温湿度計を設置し温度管理に配慮した。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングなどにおいて意見の反映を行なっている。日常的にも職員から意見を聞いている。	毎日のミーティング、月1回の全体会議時に職員の意見を聞いている。意見箱（理事長への手紙）を設置している。職員から、色画用紙の購入や、レクレーション時にはり絵を行うという提案があり、取り入れた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度の見直しや雇用助成金の申請、福利厚生制度の見直し等に職場環境を考慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を公開し、受けたい職員に関してはシフトの調整を行ない研修に参加しやすいよう配慮している。また全職員を対象とした研修法人内で実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内においては全社会議・球技大会・感謝の集い等において他事業の職員との交流の場を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々のご利用者の思いを察知して安心して生活できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に訪問調査を行ない、ご家族からも困っている事、不安、要望等を伺いどのような支援が必要かご家族と一緒に考えて考える時間を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族からも困っている事、不安、要望等を伺い、職員間で情報の共有をして当面の支援の在り方を協議している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般(家事等)をご利用者から職員も学びながら一緒に行なっている。ご利用者にできるだけ積極的に関わっていただいている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が気軽に訪問していただけるような雰囲気作りをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の望む生活が営まれるよう配慮している。馴染みの利用者の兄弟や友人、ご近所の知人の来訪を支援していく。	まだ来訪者はいないが、今後は馴染みの人の来訪を支援する意向である。送りの際、利用者の馴染みの店に立ち寄り、夕食などの買い物支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を尊重しながら利用者同士で楽しく会話できるよう職員が間に入りながら、利用者同市で関われるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他施設に移られたご利用者のご様子を伺いに行っている。相談を求められた時は応じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	サービス計画書作成時にその方の希望に沿うように努めている。日常的な会話においても、その方の想いに耳を傾けている。	利用者との日々の関わりや家族から情報を得ている。意向の把握が困難な方は、食事介助の時など職員と1対1の時に声掛けを工夫し表情からくみ取るなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用時にご本人・ご家族からの意向を職員全員で共有している。訪問調査時に聞き取れなかった情報などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を一人ひとりから聞いて現状を把握して利用者の思いを支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一ヶ月に一度はご自宅を訪問または施設に来られた際にケアマネジャーと話し合う。ご本人・ご家族の意向に沿うような支援に努めている。	利用者、家族、医師、看護師の意見を反映した介護計画である。ケアマネジャーが職員の意見を集めて介護計画を作成し、1か月に1度モニタリングを行っている。介護計画は、介護保険更新時または状態の変化があった時に見直ししている。	介護計画の目標を出来るだけ具体的に設定し、目標達成に向けた実践内容をわかりやすく記録していくことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に記入し情報の共有を図っている。その記録をサービス計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに合わせて利用できる資源を有効活用できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりのニーズに合わせて利用できる地域資源を有効活用できるよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様のご意向に沿うような支援を行なっているが、職員及び看護職員が気付いたことを細めに家族へ発信し適切なタイミングで医療をうけられるように支援している。	本人・家族の希望するかかりつけ医の利用を支援している。事業所の協力医をかかりつけ医にしている方もいる。受診は原則家族の対応になっており、受診結果は家族から報告を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が気づいたことを看護職員に伝達し看護職員の指示にて適切な受診や日々の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用の方が入院した際はこまめに病院にいき、病院関係者との情報交換やご家族との連絡を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のありかたはご家族等との話し合いを行なっている。どのような支援ができるかは構築中である。	重度化や終末期に向けた方針は「重要事項説明書」の「様態悪化時の施設対応についてのご説明」に明記している。常時、医療行為を必要としない方で希望があれば話し合いの上で看取りまで行う方針であり、契約時に家族に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員からの指導を通じて実践力を身に着ける。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特別養護老人ホームとの合同での防火訓練を実施している。	併設の特別養護老人ホーム、ショートステイと合同で年2回、11月、3月（夜間想定）に行っている。備蓄品は水・簡易トイレ・食料品などおおむね3日分あると思われるが、特養と合同の備蓄のためはっきりしない。食品類は長期保存できるクラッカー、チキンシチューなどである。	事業所の備蓄品リストなどを作成し、品目と数量および管理場所を明確にしておくことが望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には敬語を用いる声掛けをしているが、職員も家族のような存在となるように個々に合わせた声掛けや対応を行なっている。	職員は新人研修で服装、言葉かけなど接遇研修を受けている。親しみのある言葉かけをして、親しい家族のように接している。不適切な言動があった場合は随時管理者が注意をしている。個人情報などは鍵のかかるキャビネットに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用様が希望を伝えやすいようにその方に合わせた話し方を心がけている。またその方のペースで生活できる環境作りをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのニーズを把握しその日の体調も配慮しながらその方の望む生活の支援を行なっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには常に気を配っている。利用者一人ひとり望む思いを支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と職員で協力して食事の準備や後かたづけを行ない、少しでも食事や準備が楽しみにおこなっていただけるよう努めている。	食事は同法人の特養の厨房から配達される。利用者はランチョンマット、はしの準備をしている。当日利用者はランチョンマット拭きをしていた。食事の際、職員は同席して利用者を見守っていた。肉が苦手の方にはほかの食材に変えたり、お粥を提供するなど、その人に合わせている。誕生日会は手作りケーキでお祝いをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し一日を通じて摂取量の確認をしている。摂取量が少ない場合などはご家族・看護職員と連携して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアで清潔保持を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握して失敗を軽減して気持ちよく排泄できるように努めている。	自立の方以外は排泄チェック表で排泄パターンを把握し、時間を見てトイレ誘導している。自宅ではオムツを使用している方にも事業所ではリハビリパンツを利用してもらう工夫をしている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の把握、運動への参加を促し気持ちよく排泄できるように努める。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な限りご利用者の希望に沿って入浴していただく。	通いサービス利用時は、基本的に全員入浴するが、無理強いはしないようにしている。時間は希望があれば対応するが、基本的には送迎の順になっている。身体機能の低下があってもリフト浴で入浴できる。入浴を望まない方にはシャワー浴だけにするなど、個別に対応をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子によってはベッドにて休まれるようお連れして休息の支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員の指導のもとに服薬の支援を行ない様子観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内では個々のご利用者様にあわせてレクリエーションなどを行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は近隣を散歩したりしている。	建物の外周りには、ハーブや季節の草花や木々が植えられ、散策用の小路がある。利用者は散策を楽しみ、ベンチで一服する方もいる。春は近くの緑道に花見に出かけた。送りの時、夕食の買い物などに行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に応じて買い物などを楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望があればご家族確認の上で電話することを支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃を行なうことや居心地の良い環境整備に取り組んでいる。	事業所内は外履き使用になっており、ラウンジのような雰囲気がある。窓が大きく、室内は白で統一されているが、各所にポイントの色が差し込まれおしゃれな雰囲気がある。リビングにはテレビ、ソファ、湿温度計、空気清浄機、観葉植物、囲碁セットなどがあり、寛げるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設の外の空間やホーム一階のランジなどで過ごしていただいたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みの物はすすんでお持ちいただき居心地よく過ごしていただいている。	泊まりの部屋は個室が4室、2人部屋（パーテーション使用）が1室ある。ベッド、エアコン、ナースコールが完備されている。利用者は好みのものを持ち込みでき、安心できる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は自立して過ごせる環境作りをしている。いつでも職員が見守り安全を配慮している。		

目標達成計画

事業所名

小規模多機能型居宅介護
クロスハート幸・川崎

作成日

平成27年1月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域の方に小規模多機能型事業所があまり理解されていない。	事業所が地域の一員として認識していただけるよう認知してもらう。	地域とのつながりを選めた取り組みを行う。地域のイベントやお集りに参加したりして事業所の情報発信を行っていく。	12ヶ月
2	26	利用者、家族、医師、介護士の意見を反映した介護計画が作成されていない。	本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成する。	介護計画の目標も出そろった後具体的に設定して目標達成に向けた実施計画内容をわかりやすく記載していく。	12ヶ月
3	35	災害対策の備蓄品が特養と合同の備蓄のためにはあてられていない。	火災や地震、水害等の災害時に備え事業所の備蓄品を明確にする。	事業所の備蓄品、水・簡易トイレ・食料品などの備蓄品リストを作成する。管理場所を明確にする。	3ヶ月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。